公正ナル軍縮協定ノ成立ニ對シ眞摯ノ努力ヲ惜マサルハ帝國政府ノ終始一貫セル方針ナル處今般英佛兩國協定ニ係ル海軍軍備制限方式ハ從來各種提案ノ間ニ存在セル合理性ト實行可能性トノ杆格ヲ良ク調和シ得タルモノニシテ帝國政府ハ本協定ノ趣旨ニ贊意ヲ表シ候

然レトモ各國ニ一律ニ適用スヘキ大型巡洋艦及潛水艦ノ最大限噸數ハ國民負擔ノ輕減ト國ノ安全ノ兩見地ヨリ事情ヲ異ニスル各國ヲ滿足セシムルモノタラサル可カラサルヲ以テ之カ協定ハ最モ愼重公正ナルヲ要スルモノト認メ候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

昭和三年九月七日

外務大臣　男爵　田中義一

大不列顛臨時代理大使

「セシル、ドーマー」貴下

第六章　制限外艦船

制限外艦船問題審議經過

一、制限外艦船ニ對スル審議ハ二月六日第三回第一委員會ニ於テ之ヲ特殊艦船問題ト共ニ專門委員會ニ付託シ同委員會ハ二月十三日、十四日ノ第四回及第五回會合ニ於テ略之カ審議ヲ完了シ三月七日第一委員會四月十四日總會ニ於テ夫々右專門委員會決定ヲ採擇セリ

專門委員會ニ於ケル大勢

二、右專門委員會ニ於ケル大勢ハ壽府三國會議假協定ヲ支持シ之ニ對シ我方ヨリハ六百噸ヲ超ヘ二千噸ヲ超エサル戰鬪用艦艇及非戰鬪用艦船（壽府假協定(B)級及(C)級後述三參照）ヲ一括合併セル案ヲ提議シ壽府案(B)(C)兩級間ニハ單ニ大小ノ差ノミニシテ特性上區別ヲ要スルカ如キ差異ヲ認メス又商船ノ速力增加ニ鑑ミ「十八節」ヲ「二十節」ニ改ムヘク且機雷敷設裝置ノ如キハ戰時ニ於テ急速之ヲ商船ニ裝備シ得ヘキヲ以テ特ニ之ヲ揭クルノ要ナシト主張シ我方提案ヲ基礎トセンコトヲ求メタルモ他ノ四國何レモ之ニ反對セルヲ以テ我方ハ後日要スレハ再ヒ發議シ得ルノ權利ヲ保留シテ其提案ヲ撤回シ（其後本問題ヲ提起セス）依テ專門委員會ハ壽府假協定ヲ基礎トシテ審議ヲ進メタリ

壽府假協定及日本提案

三、壽府假協定及日本提案左ノ如シ

(イ)　壽府假協定

(A)　基準排水量六百噸未滿ノ海軍水上戰鬪用艦船ハ總テ制限外トス

(B)　單艦基準排水量六百噸乃至二千噸ノ海軍水上戰鬪用艦船ハ左記性能ノ何レヲモ有セサルモノニ限リ總テ之ヲ制限外トス

(1)　口徑六吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スルコト

(2)　口徑三吋ヲ超ユル砲四門ヲ超エ搭載スルコト

(3)　魚雷發射ノ計畫及裝置ヲ有スルコト

(4) 計畫速力十八節ヲ超ユルコト

(C) 特ニ戰鬪用トシテ造ラレタルニ非サルカ又ハ平時ニ於テ戰鬪ノ目的ヲ以テ政府ノ管理下ニ置カレタルニ非サル一切ノ海軍艦船ニシテ艦隊雜務若クハ軍隊輸送船又ハ戰鬪用艦船以外ノ役務ニ服スルモノハ左ノ性能ノ何レヲモ有セサルモノニ限リ總テ之ヲ制限外トス

(1) 口徑六吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スルコト

(2) 口徑三吋ヲ超ユル砲四門ヲ超エ搭載スルコト

(3) 魚雷發射ノ計畫又ハ裝置ヲ有スルコト

(4) 計畫速力十八節ヲ超ユルコト

(5) 裝甲ヲ有スルコト

(6) 機雷投下ノ計畫又ハ裝置ヲ有スルコト

(7) 飛行機着艦裝置ヲ有スルコト

(8) 飛行機發進裝置ハ中央線上ナラハ一基、舷側ナラハ各一基宛卽チ合計二基ヲ超ユルコト

(ロ) 日本提案

(1) 基準排水量六百噸ヲ超エ計畫速力二十節以下ノ海軍水上艦船ハ左ノ性能ノ何レヲモ有セサルモノニ限リ總テ之ヲ制限外トス

(A) 口徑六吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スルコト

(B) 口徑三吋ヲ超ユル砲四門ヲ超エ搭載スルコト

(C) 魚雷發射ノ計畫又ハ裝置ヲ有スルコト

(D) 裝甲ヲ有スルコト

(E) 飛行機着艦裝置ヲ有スルコト

(F) 飛行機發進裝置ハ中央線上ナラハ一基、舷側ナラハ各一基宛卽チ合計二基ヲ超ユルコト

四、依テ專門委員會ハ審議ノ後壽府假協定ニ左ノ如キ修正附加ヲ爲シタリ（壽府假協定ノ修正附加）

(A) 級ノ「六百噸未滿」ヲ「六百噸以下」ニ改ム

(B) 級及(C)級ノ速力ヲ日本側主張ノ如ク「二十節」ニ改ム

(B) 級ノ「六百噸乃至二千噸」ヲ「六百噸ヲ超エ二千噸ヲ超エサル」ニ改ム

(C) 級ノ(5)ヲ「裝甲鈑ニテ防護セラレタルコト」ニ改ム

特殊艦船審議ノ際飛行機母艦ニ關シ(C)級ノ(9)トシテ左ノ一項ヲ加ヘタリ

「若シ飛行機發進裝置ヲ有スルニ於テハ海上ニ於テ三機ヲ超ヘ行動セシムル計畫又ハ設備ヲ有スルモノ」

註、（專門委員會ハ右(9)ノ「行動セシムル」ナル語ハ「飛行機ヲ使用シ得ヘキ狀態ニ於テ運搬、維持スルコト」ナル旨ノ定義ヲ記錄ニ留メタリ）

五、其後條約起草委員會ハ(C)級ノ「又ハ平時ニ於テ戰鬪ノ目的ヲ以テ政府ノ管理ノ下ニ置カレタルニ非サル」ナル字句ハ文意明瞭ヲ缺キ不必要ナリトノ理由ヲ以テ制限外艦船ニ關スル條約第八條(C)級ノ規定ニ於テハ之ヲ削除セリ（條約委員會ニ於ケル修正）